

■ 漢字はかなより覚え易い

「漢字はかなよりも覚え易い」などとは、私だってそれまでは夢にも考へたことはありませんでした。それは、昭和28年、一年生を担当して、文部省が決めた学習漢字の十倍に当る量の漢字を子供たちに教へてみて初めて判った事です。

誰もがさう思つてゐたやうに、私も「漢字は覚え難いものに決つてゐる」と思つてゐました。ただ私は“学校”といふ漢字が一年生にとってどんなに難しいものであつても、社会では決して使用されることの無い“がっこう”といふ表記で教へるのは間違つてゐるのでは無いか」と考へてゐたものですから、教科書のかな書きの言葉を片っ端から漢字表記に変へて教へて行きました。

社会では“がっこう”といふ表記は絶対に使ひません。新聞の記事に“がっこう”といふ表記は絶対に使ひません。また、“がっこう”といふ表記の看板を掲げてゐる学校は、一つだつて見付けることは出来ないでせう。これでは、折角努力して覚えた“がっこう”は、社会の役には全く立たない、といふことになります。

いや、役に立たないだけならまだ良いのです。“がっこう”と覚えた事が、次の“学校”といふ漢字の学習を困難にしてゐることが、後の実験で証明されたのです。今まで(今でもさうです)漢字の学習がうまく行か

第一章 早くからの漢字教育は子供の能力を大きく伸ばす——私の漢字教育実践記——
なかつたのには、「漢字で表記すべき言葉でも、初めは必ずかな表記で学習させる」といふ事が原因になつてゐたのです。然し、その事が確かめられたのは、この時から3年後の事になります。

「どんなに学習が困難であるとしても、学習して社会の役に立つものを教へるのが教育といふものでは無いだらうか」「難しいからと言って、その代りに易しいものを教へるといふ事は、いかにも子供の爲を思ひ遣つての計らひのやうであるけれども、社会の役に立たないものを教へられたのでは、逆に子供には不幸なのでは無いだらうか」